



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 68

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚
粟島海員学校の授業風景
教室での授業
昭和45(1970)年頃 詫間町

粟島海員学校の授業と言えば、カッター（大型手漕ぎボート）の練習風景が紹介されるが(広報No.92など)、その他にもさまざまな授業があり、生徒たちは海員として必要な知識を学んでいた。今回紹介しているのは、教室での授業風景。船の構造やしぐみについて、模型を利用して授業がおこなわれている。他にも手旗信号の練習などの写真が残っている。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】

「思い出の1ページ」

「この写真は、海員学校の機械科の授業風景ですね。船のエンジン内部の説明をしているところだと思えます」と写真を指差しながら話したのは、かつて船乗りとして働いていた、粟島在住の山北幸男さん(74)。

「海員学校には、船の構造を学んだり、部品を作ったりする機械科と、航海技術や船全体の整備を学ぶ甲板科こうばんかがありました。粟島に住む男の子の半分くらいは、中学校卒業後に船乗りを目指して海員学校に進んでいましたよ。学校には、四国内や岡山からも生徒が集まり、みんなで寮生活をしていました。船乗りはそれほどみんなが憧れる職業でしたね。私は8人きょうだいで、その内5人が船乗りになったほどですよ。粟島には一家に一人、船乗りがおったんじゃないでしょうか。ただ私は、人より早く船乗りになりました。中学校卒業後は海員学校に進まずに、元船員である叔父にエンジンのことや甲板のことを聞いて船乗りになりました。覚えることがたくさんあって大変だったけど、船乗りになれた時のことを考えたら勉強も頑張れました」と当時の記憶を振り返ります。

「船乗りとしての知識を学ん

だ後は、36年間、船で働きました。ペルシャ湾、アメリカ、東南アジア：船に乗って世界中のいろんなところに行きました。一度日本を出ると、3カ月は帰ってこないこともありましたが、仕事が終わると、船の上で運動大会をしたり、みんなで歌ったり：楽しかったなあ。生まれ変わってもまた、船乗りになりたいですね」

大正9年に建築された、船乗りたちの学び舎、国立粟島海員学校は昭和62年に廃校となりました。その後、粟島海洋記念館として当時のおもかげを残しています。粟島を訪れた際は、ぜひ、お立ち寄りください。



編集 後記

今 回粟島に行って、アーティストのお二人と話をしていると、その思考の深さに驚かされました。何を見て、いかに考え、どう表すのか。人による感性の違いを楽しむのがアートなのか！と目からうろこが落ちました。こんな身近なところで(船で約15分)、アーティストが作品づくりをしているのは、驚沢な環境ではないでしょうか。